

歴史系資料・事象情報化に関する研究

—その経緯と基礎的課題—

八重樫 純樹

はじめに

- 1 資料情報の諸性質と空間モデル化
- 2 情報の生成と利用空間

3 資料情報形成の基本視点

- 4 データ形成の基本過程と課題
 - まとめ
-

論文要旨

歴史的資料・事象等に関する情報化研究はその必要・十分機能集合としての情報システム形成性論、資料・事象情報解析・形成論、そして情報処理方法論の3つの有機的研究が必要である。しかし、従来から行ってきた研究経緯において、これら研究の最も基礎となるのは情報解析・形成論であると認識するに至った。この問題は、実は社会一般の情報化の諸問題からみて、極めて集束困難な課題でもある。さらに、この困難な課題に対して、従来的研究の中でもまだ十分に整理されておらず、アプローチの端緒がつかみにくいのが現状である。

この認識のもとで、従来的研究を踏まえ、資料・事象情報化の基礎的諸問題等に関し、はじめに情報形成論の動機と目的、および問題の基本的提言とその概要を示し、1章で歴史的資料・事象の諸性質を整理し、その情報関連、情報諸性質の把握およびこれら対象を混乱することなく、独立変数として扱う経緯空間と事象情報空間のモデル化について、2章ではこれらの生成、利用空間としての博物館機能空間の分析と情報化との関連、関連学会の状況と諸性質について、3章ではこれら資料・事象および形成・利用空間の諸性質をもとに、再整理しつつ、情報化の基本視点について、4章では具体的な形成の手順とその情報諸性質に応じたいくつかの方法および従来的研究から得た解決方法、さらに基本的な諸問題について、最後にこれらのまとめを示すものである。